

4. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

＜農学部生物資源開発学科＞（認定課程：高一種免（農業））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	一社会人として常識的な考えを持ち行動できる基礎を構築するとともに、自分が教員として社会に何をどのように還元できるのかを考えさせ、将来の目標を明確にする。さらに、農学に関する講義、実習を通じて農業の基礎的知識と技術を身に付け、農学の意義や社会的な役割を理解する。 あわせて、入学ガイダンス時に教職課程関連資料配布および説明を実施し、4月の教職説明会にて「教職課程履修案内」を配布し、教職課程履修への意欲向上を目指す。
	後期	教職課程科目の履修により教員としての基盤を形成させつつ、「教育」に対する考え方として、個人の主観だけでなく、理論の積み重ねと行動力により物事を進めることを十分に理解させる。また、学生の指導において幅広い年齢層、性格、行動を理解し、補助できる能力を身に着ける。さらに、基礎的な理科系科目を中心に幅広く学び、中等教育から高度な大学レベルの知識を身に付けるための基本的能力を涵養する。 あわせて、履修カルテ配付による指導を実施し、教育者に求められる資質や能力を確認し理解する。
2年次	前期	1年次に続き、教育論をより高度に学び教育者としての理解を深める。さらに、1年次に身に付けた科学の基礎力を、農業を含む専門科目へ展開する。教科科目の実験等では農業との関わりの深い生体試料の観察や分析を行う。多様な生物を扱う専門科目群を履修し、広範な知識と方法論をもとに、農学の視点から生命、自然の事象を科学的に思考する。 さらに、現職教員や元教員による講義、講演会、学校ボランティアに参加することで、教育現場の現状に関する理解を目指す。
	後期	教育現場での学生に対する対応能力の向上を目的として各種教育指導論を配置する。教科科目では植物や動物の育成管理に関する専門的な講義を履修し、科学的な思考に基づく学問体系を学ぶことで、高等教育の性格を理解させる。また、これまでに学んだ科目を体系的理解し、農業の社会的な意義や役割についての現状と課題を抽出することで、課題解決能力を涵養する。
3年次	前期	教育の専門性を高めるとともに、多様な学生に対して人としての倫理や行動などの指導を行う能力の向上を目指す。また、教科科目では農業経営等の広い視野から諸課題を理解し、農業科で扱われる内容や指導法を実践するための能力を養う。さらに、研究室に所属することで、これまでに学んだ広範囲な知識を基盤として、人、生物、自然環境に関する諸課題の解決に取り組むための方法論を習得する。 あわせて、教育実習指導の充実により、教育指導案の作成等、具体的な授業運営、校務分掌についての理解を目指す。
	後期	農業に関する専門的知識・技術の修得に加え、専門高校における職業指導の役割と指導法を学び、専門分野を確立するためのスキルと知識を修得させる。さらに、研究室単位での実習では、作物や薬用植物を含めた有用植物等の生産から加工、動物の飼育や管理に関する技術を広く理解、習得させる。 あわせて、教育実習などを見据えて、農業高校教員の講義や講演会、各種ガイダンスを受け、農業におけるスペシャリストとしての基礎的な知識と技術を身に付けさせるための指導力を育成する。
4年次	前期	教育実習に向けて授業計画となる学習指導案の作成と、それに基づいた模擬授業を行い、授業運営について理解を深める。教育実習に参加し、教職現場を体験することで、教員として必要な資質を習得する。適宜、現場教員と教職課程教員や事務員による的確なサポートを行い、学生にフィードバックすることで、不足している知識や技能等を補う。さらに、卒業論文に関わる実験や調査を進め、その過程で計画能力、調査能力、実行力、理解力、考察力など各種能力の向上に努める。
	後期	4年次前期に続き卒論研究を着実に遂行し、最先端の科学に関する意識を涵養する。また、卒業論文の作成を通じて科学の営みを体現し、科学的な表現方法、プレゼンテーションの能力を身に付けることで、教職課程におけるこれまでの学びの集大成とする。同時に、科学的な探究力と態度を育成し、自らの学びを社会に還元するための知識と技術を身に付け、農業科教員に求められる資質と能力を高める。